

私立大学研究ブランディング事業 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	231019	学校法人名	学校法人名城大学		
大学名	名城大学				
事業名	新規ナノ材料の開拓と創製による名城大ブランド構築プログラム				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	14,010名（H29.4.1現在）
参画組織	理工学部、大学院理工学研究科、ナノマテリアル研究センター				
事業概要	<p>本事業では“カーボンナノチューブ発祥の地”である名城大学のナノ材料研究の伝統をベースに、飯島澄男終身教授の研究グループを中心に新規ナノ材料の開拓と創製に関する世界レベルの基礎研究を全学体制のもとで進める。成果をホームページ、模擬講義等、様々な媒体で広報し、本学の将来ビジョン「『学びのコミュニティ』を創り広げる」を実現するために掲げる研究ミッションを推進することで「世界の名城大」ブランドを構築する。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、新規ナノ材料の開拓と創製を通じた戦略的なブランディングにより、本学のブランド力を高め、広い視野をもった質の高い意欲的な入学者を獲得し、本学伝統のナノ材料研究を世界最高水準に発展させ、世界的な研究拠点に構築する。同時に本学の将来ビジョン「『学びのコミュニティ』を創り広げる」にならい、学問の探求と理論の応用による成果を教育と社会に還元する。さらに平成28年度選定事業「青色LEDを起点とする新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム」との協奏的ブランディングを推進し、「世界の名城大」のブランド構築を行うことを目的とする。</p>				
②29年度の実施目標及び実施計画	<p>研究活動としては、必要な実験装置（アークプラズマ成膜装置他）導入の準備を行い、研究基盤形成の環境整備を進める。具体的にはナノマテリアル研究センターを設立し、全学体制を構築する。また、他研究機関との連携により、高度なナノ材料解析を進める。ブランディング戦略としては、本学のナノ材料の研究成果等を国内外に発信する環境整備を進める。具体的には、ホームページの開設や一般向けの公開シンポジウムの開催、近隣の小・中・高校での模擬講義や模擬実験を計画している。</p>				
③29年度の事業成果	<p>平成29年度事業選定後、直ちにナノマテリアル研究センターを立ち上げ、また計画どおりにアークプラズマ成膜装置等の実験装置を購入し、加速的に研究体制を整えた。また、ホームページも早急に開設し、情報発信を進めた。平成30年3月22日には、一般向けの公開シンポジウム「世界を変えるナノ材料・光デバイス」を開催し、ナノマテリアル研究センターの飯島澄男名誉センター長による講演の他、事業概要や活動実績等の報告を行っている。また、平成30年4月に(株)フロムページが発表した「関心を持った大学ランキング2018」では、本学が2年連続中部圏第1位となり、東海圏の枠を越え、北陸、甲信越地域でも、存在感を示している。</p>				

<p>④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)平成29年度事業に係る自己点検・評価は平成30年5月1日に書面評価とヒアリング評価を実施した。書面評価については、得点率87.3%となり「優」と判定された。委員からは概ね順調に進捗しているとの高評価の他、学外との連携をさらに進めてほしい、ブランディングの成果を測る方法をもっと具体化すべきとの意見も出された。また、ヒアリング評価については、法人による大学の将来ビジョンやブランド戦略に係るプレゼンテーションとナノマテリアル研究センター長の丸山隆浩教授らによるプレゼンテーションを踏まえ、A評価が6名、B評価が4名となり、「非常に優れた成果が出されている」との評価が最も多かった。</p> <p>(外部評価)平成29年度事業に係る外部評価は平成30年5月21日に大学の研究者、産業界から選出された9名の外部評価委員会委員のうち7名の出席により、実施された。書面評価については、得点率72.5%となり「良」と判定された。書面評価において各委員からは所見として、研究面では、計画的・戦略的に進めてこられたナノ材料研究に関する名城大学のブランド化は着実に実を結んでいると思われる。またブランド面では、ホームページの立ち上げ、研究センターの立ち上げ、シンポジウムの開催等、順調に進捗している印象を持ったとの評価をいただいた反面、産学連携の必要性、PDCAサイクルのフィードバック方法に係る指摘等があった。ヒアリング評価については、法人による大学の将来ビジョンやブランド戦略に係るプレゼンテーションとナノマテリアル研究センター長の丸山隆浩教授による研究部門に係るプレゼンテーションが行われ、これらを踏まえ、7名の出席委員のうち、B評価が6名、C評価が1名(A評価は0)となり、「優れた成果が出されている」との評価が最も多い結果となった。また委員からの所見においては、全体面として、採択から少ない時間であったものの、具体的な活動面での実績は良くわかり、概ね良好な成果が出ている等の高い評価をいただいた。その反面、企業との連携や社会貢献をもっとアピールすべき、ナノ材料について、実用化イメージを明確にしたPRがあると良い等の意見もあり、平成30年度の事業展開に合わせて、研究ブランディング事業実施委員会でも対応していく必要がある結果となり、改善に繋げていくことになった。</p>
<p>⑤29年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成29年度事業選定以降に予算執行を開始し、慌ただしいスケジュールではあったが、予算配布額 95,800千円に対し、執行額は95,416千円と99.6%の執行状況であった。主な用途は以降のとおり。AFMラマン装置(49,996千円)/アークプラズマ成膜装置(29,808千円)/ホームページ開設(3,000千円)/国際会議等(フランス)参加費・旅費(735千円)他</p>